

国際法上も、エルサレムはユダヤ人の領土

— サンレモ・エルサレムの平和の祭典 —

シオンとの架け橋 石井田直二

「エルサレムがユダヤ人のものだというのは、聖書の中だけの話。国際法上はパレスチナ人のものだ」と考える人が多い。だから、ユダヤ人は東エルサレムや西岸地区を「不法占拠」していると、人々は言う。

だが、エルサレムを含む広大な地域は国際法的にも明らかにユダヤ人のものだという、驚くべき内容の集会が、4月23日に東京で開催された。しかもその根拠に日本も関わっていたというのだ。

この集会の開催の話は、シンガポール経由で日本メシアニック親交会の横山隆師のところに入った。しかし、ECI (European Coalition for Israel) メンバーの来日日程が正式決定するのが大幅に遅れ、日本側が動き出せたのは3月下旬。4月に入ってシオンとの架け橋などが協賛を決めた時は、すでに開会まで3週間となっていた。

それでも、関係者の献身的な努力と電話作戦などの結果、昼間のセミナーには約100人、夜の晚餐会には約70人の人々が集まった。誰もが聞いたことの無い話に、会場は熱気につつまれた。

■ ジャック・ガウティエ博士の研究

カナダの国際法学者である博士は「エルサレムは国際法上誰のものか」という研究に取り組んだが、結論に至るまでに20年の歳月が流れたという。「研究を始めたときは、すぐに結論が出ると考えたが、その時には黒かった髪の毛が、結論が出た時にはすっかり白くなっていた」と博士は笑う。

博士はまず、「1967年の境界線(通称グリーンライン)は、単なる停戦ラインであり、領有権とは無関係です」ときっぱり。そして、話は1919年のパリ会議に飛ぶ。それまで聖地を領有していたオスマントルコが第一次世界大戦で大敗を喫し、その領土の分割を戦勝国が検討した会議だ。ここで、ユダヤ人、アラブ人が共に要求を述べ、翌1920年4月25日、イタリアのサンレモに戦勝国が集まり結論を出した。その決定に関わったのが、当時の「列強」であった米、英、仏、伊、そして日本の5カ国だった。

当時、戦勝国が敗戦国から領土を得るのは国際法上のルールで、それにもとづき後にシリアやイラクなどが建国された。そして、サンレモ会議では「ユダヤ人のパレスチナに対する歴史的関係」が認められ、その地域をユダヤ人に与えるとの条項が盛り込まれた。

この会議に出席したハイム・ワイツマン(後のイスラエルの初代大統領)は「ユダヤ史

における出エジプト以来の大事件だ」と語ったという。

この決定は、現在の国連にも受け継がれている。ゆえに、東エルサレムを含む西岸地区は国際法的にユダヤ人の土地だというのが博士の主張だ。

■ E C I の活動

ヨーロッパでイスラエル支援活動を行っていたトーマス・サンデル師（E C I 議長）は「この話を聞いて、人生が変わった」と語る。彼は、サンレモ会議からちょうど90年目の2010年4月25日、各国の代表をサンレモに集め、会議の意義を再確認する集会を開催しようと考えた。

すると「まるでハリウッド映画のように」その会議が実際に行なわれた部屋を奇跡的に予約する事ができたという。だが、良くできたサスペンス映画のように、開催日が迫るにつれて様々な妨害が入る。さらに、集会の直前にはアイスランドの火山が噴火してヨーロッパ全土の旅客機が止まるという大事件が起こり、絶体絶命の状況となった。しかし、その大混乱の中、サンデル師らは奇跡的に会場に到着し、集会を開催することができたのだ。

それから2年。ガウティエ博士とE C Iのチームは、その決定に関わった米、英、仏、伊の各国の国会を回ってプレゼンテーションを行なって来た。そして、最後に残ったのが日本だったという。

各国での活動についても「奇跡的な導き」で次々に扉が開かれて来たと、サンデル師は語る。

■ 祈りの歴史と日本の役割

夜の晩餐会で挨拶に立ったベンシトリット駐日イスラエル大使は「サンレモ会議のことなど今まで何も知らなかった」と明かした。もちろん、会議に参加した大半の人々も同様だった。

「ユダヤ人がエルサレムを不法占拠しているわけではない」というガウティエ博士のメッセージには説得力があった。しかし、私もメッセージの一部を通訳させていただいたが、国際法の知識が無いとかなり難しい。やはり、博士の主張は専門家の手で日本語訳される必要があると感じた。ぜひ、その方面の賜物を持つ人が現れて欲しいものである。

さて、サンレモ会議でパレスチナをユダヤ人に与える決定に日本が関わってから10年ほど後で、日本でも重要な事件が起こった。中田重治師に導かれた人々が、イスラエル回復のために祈り始めたのである。このことを来日されたチームの方々にお話しし「イスラエルへの祈り～時を越えて」のDVDを贈呈することができた。

神のご計画の成就の重要な部分で、神が日本を用いられたのはすばらしい恵みだ。だが、まだ私たちの仕事はまだ終わっていない。「シオンの義が朝日の輝きのようにあらわれいで、エルサレムの救が燃えるたいまつになる」（イザヤ 62:1）までは……。